

オランダにおける 1980 年代の移民政策とトルコ系住民・クルド系住民の活動

- 「柱状化」とクルド人意識をめぐる考察 -

Dutch Immigration Policy and Turkish and Kurdish Activities in the 1980s

- “Pillarization” and Kurdish Identity -

寺本めぐ美 (津田塾大学大学院国際関係学研究科 後期博士課程)

TERAMOTO Megumi (Graduate School of International and Cultural Studies,

Tsuda College)

キーワード：オランダの移民政策・「柱状化」・イスラーム教基礎学校・クルド人意識

1. 目的

本報告の目的は、1980 年代にオランダのクルド系住民が、オランダ社会の多元性を可能にする「柱状社会」の枠組を活用してきたのかを検討することにある。具体的には、オランダのトルコ出身のクルド系住民の活動に焦点を当てる。クルド人のトルコからヨーロッパへの移動の最初の大きな波は、1960 年代以降の外国人労働者である。1980 年代以降は、トルコの軍部によるクーデタを背景とした亡命希望者の移動が見られた。(Bruinessen、2000)

1980 年代のオランダの移民政策は、「柱状社会」の枠組を通してイスラーム教基礎学校の設立を可能にした。(川上、1998・松浦、2000)トルコ系住民を含むイスラーム系住民によるイスラーム教基礎学校設立運動の一方で、クルド系住民はクルド人意識に基づいて活動していたと考えられる。クルド系住民は、「柱状化」を通してイスラーム系住民の権利拡大を可能にした 1980 年代の移民政策の対象から外れていた。

2. 先行研究

「柱状社会」の枠組がオランダのイスラーム系住民に与えた影響に関する先行研究において、イスラーム系住民として主に対象にされたのは、トルコ系・モロッコ系住民である。これまで、クルド系住民への注目はほとんどなされてこなかった。トルコ出身のクルド系住民は、オランダ中央統計局等による調査でトルコ系住民に含まれる上、トルコ系・モロッコ系住民と比較して圧倒的に少数である。しかし、オランダにおけるイスラーム系住民の「柱状社会」の枠組の活用に関しては、イスラーム系住民内部の多様性を視野に、クルド系住民へも焦点を当てる必要がある。

3. 「柱状化」と「脱柱状化」

オランダでは、カトリック・プロテスタント・自由主義・社会主義といったサブカルチャーを軸として組織化された「柱」が社会を分節化する、「柱状化」が見られた。1920 年代に至るまでに、サブカルチャーごとに、政党や労働組合、放送、学校、新聞等の編成がなされた。(Andeweg、2009)1960 年代後半以降は「脱柱状化」が進んでいったとされるが、社会構造や移民政策に「柱状化」の影響が残るオランダ社会を、「柱状社会」として理解することが可能である。オランダにおける宗教立学校の設立の自由は、「柱状社会」の枠組の一つとして機能し、1980 年代にイスラーム系住民によるイスラーム教基礎学校の設立を可能にした。

4. 1980 年代の移民政策とトルコ系住民の活動

第二次大戦後の経済復興過程での労働力不足等により、オランダは 1960 年代に外国人労働者を受け入れた。1964 年にオランダとトルコは二国間協定を結んだ。1970 年代には家族の再結合が進み、定住化が促進された。オランダの多文化状況に関する専門機関 Forum の 2009 年の調査では、オランダのトルコ出身者は約 37 万 8000 人で、欧州評議会の 2006 年の調査ではオランダのクルド系住民は 7~8 万人である。

1983 年に政府が公表した「マイノリティ覚書」(Minderhedennota)は、「文化」としての宗教に基礎を置

く組織の形成を可能にした。宗教に基礎を置く組織の形成は、宗教立学校設立の自由という「柱状社会」の枠組と結びついた。1988年には、トルコ系住民を含むイスラーム系住民は、オランダにおける最初のイスラーム教基礎学校の設立を果たした。(川上、1998)

5. 1970年代末から1980年代のクルド人意識

イスラーム系住民が1980年代にイスラーム教基礎学校を設立した一方、1970年代末以降のクルド系住民はクルド人意識に基づいて活動していたと考えられる。トルコからの外国人労働者に含まれるヨーロッパのクルド人は、1970年代末以降、学生や亡命者によって組織化・政治化された。ヨーロッパの外国人労働者は当初、トルコ系労働者としての意識を持ったが、少しずつクルドのネットワークや組織が現れた。(Bruinessen, 2000)オランダでも、イスラーム系住民の「柱状化」が見られる1980年代とほぼ同時に、KOMKAR(Koerdische Arbeiders Unie)やFED-KOM(Federatie Koerden in Nederland)が設立された。

本報告では、クルド系住民のクルド人意識を検討するために、オランダのKOMKARとFED-KOMの活動を考察する。KOMKARはクルド系労働者の利益に関連する活動に焦点を絞って設立された。FED-KOMはトルコにおけるPKK(Partiya Karkerên Kurdistan)の活動と関わる。(Bruinessen, 2000)

6. KOMKARとFED-KOMにおけるインタビュー

2011年のFED-KOMにおけるインタビューでは、オランダの移民政策において、クルド系住民は1980年代にマイノリティとして認識されていなかったことが指摘された。さらに、この時期のFED-KOMの目標は、オランダでクルド人意識を見出すことにあり、イスラーム教基礎学校設立運動とは関わりがなかったことが明らかになった。KOMKARにおいても、クルド人意識をイスラームという宗教よりも重視してきたことが示された。

7. 「柱状化」とクルド系住民の活動

1980年代にイスラーム系住民の「柱状化」が見られた一方、クルド系住民はクルド人意識に基づいて活動していた。加えて、「柱状社会」の枠組はクルド系住民独自の「柱」の形成を可能にするものではなかったため、クルド系住民は「柱状社会」の枠組を活用してこなかったと考えられる。クルド系住民の「柱」が成立しなかった理由として、トルコ系・モロッコ系住民と比較して少数であることや、「柱状化」の伝統は特定の「民族」に基づくものではないことが挙げられる。

8. 結論

1980年代のオランダの移民政策は、「柱状社会」の枠組を通してイスラーム教基礎学校の設立を可能にした。一方、この時期のクルド系住民はクルド人意識に基づいて活動した。さらに、クルド系住民の「柱」は成立せず、クルド系住民にとって「柱状社会」の枠組の活用は困難だった。1990年代に入るとクルド系住民は、移民が「市民」となる意志を示すべきだとする政策の枠組を活用していく。

参考文献

Andeweg, Rudy B. and Galen A. Irwin, 2009, *Governance and Politics of the Netherlands*, Palgrave Macmillan.

Bruinessen, Martin van, 2000, "Transnational Aspects of the Kurdish Question," Working paper, Robert Schuman Centre for Advanced Studies, European University Institute, Florence.

川上幸恵、1998年、「ムスリム移民の統合と柱状化」『日蘭学会会誌』第23巻第1号。

松浦真理、2000年、「オランダにおける宗教立学校の実在意義に関する一考察」『京都精華大学紀要』第18号。